

市長から市民のみなさんへ

70

山陽小野田市長 白井 博文

市長宛にお寄せいただいたお手紙から

「北九州に住んでいる 56 歳の女性です。山陽小野田市に年老いた 77 歳の母が一人で暮らしています。母の住んでいる自治会は田舎で戸数が少なく、自治会長は順番で持ち回ることになっています。足腰も弱く、物忘れのひどくなってきた母は "大役" を果たせそうにありません。市で自治会長の年齢制限など一定の基準を設けていただけないでしょうか？」

切実な想いが痛いほど伝わってくる文面です。近年、過疎化、高齢化がすすみ、お手紙のように共同生活を維持していくことが困難な地域が急速に増えていると聞いています。しかし、結論から申し上げますと、このようなご相談に対して市役所は積極的に解決策を打ち出す立場にはなく、残念ながらご希望に添うことができないということをまずはお伝えしなければなりません。

現在、市内には 342 の自治会があり、市からのお知らせ文書を取り次いでいただくなど、市役所にとってもたいへん有り難く、また密接な関係にある団体といえます。しかしながら、あくまでも地域の人たちが、地域のために作っている自主的な団体という位置づけである以上、市はお金の助成はしていますが、その運

営についてあれこれ指示することはできません。自治会長の選任方法についても、問題があるようでしたら、みなさんで知恵を出し合って解決していただくしかなく、市は関与することはできないという点についてどうかご理解いただきたいと思います。

一方で今回、ご相談をいただいたことで、高齢者ばかりが暮らす、いわゆる "限界集落" への支援策について検討をはじめの時期に来ているのではという認識を新たにしたところです。お手紙ありがとうございました。

さて、下の記事にありますように、中央図書館の新館長に北九州市出身の津田恵子さんが就任しました。広報紙、ホームページ等で 1 月から 2 月にかけて行った今回の公募には、市内外から 13 人の応募があり、審査会で作文・書類選考、面接を行った後、教育委員会にて正式に決定されました。

図書館業務をまさにライフワークとしている津田さんですが、まだ就任されてまもないので、本格的な改革に乗り出されるのはまだ先のことでしょう。重責には違いありませんが、津田さんが描く図書館像を目指し、今後、どのように中央図書館が姿を変えていくのか楽しみにしているところです。

"新しい時代" の "新しい図書館" に向け、新たな挑戦がスタートしました。ご期待ください。

中央図書館の 新館長が決まりました。



▲今までの豊富な経験を活かした図書館運営が期待されます。

中央図書館の館長に北九州市出身の津田恵子さん（写真）が公募により選ばれ、4 月 1 日付けで就任しました。

図書館で働きたい一心で北九州市の職員になった津田さんでしたが、念願叶ったのは平成 11 年のこと。一身上の都合により退職された後も、日本図書館協会の評議員や図書館問題研究会、西日本図書館学会で活躍されています。

「誰もが気軽に利用できる親しみやすい施設にしたい。」と抱負を語る津田さん。次号 5 月 1 日号の「夢いっぱい」のコーナーで詳しくご紹介します。